

## 第二回プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング概要

第二回プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリングにおける各参加者の発言の要点は以下のとおり。

### ① プライベートケアクリニック東京 東京院 院長 小堀善友さん

- ・ 男性にプレコンセプションケアの概念が浸透していない。最近ようやく学会で男性のプレコンセプションケアも議論されるようになってきた。
- ・ 男性不妊の原因として、射精機能障害が増えてきているが、思春期から不適切なマスターベーションを行っていることが主たる原因であると考えられる。
- ・ 保健所のみ依存することなく、youtube やアプリなどを活用し、スマホ内で行うことができるサービスで中高生のうちから適切な自らの性との向き合い方を啓発していく必要がある。
- ・ 相談支援については、保健所だけでは対応できなくなることもあると思われるので、保健所以外の場も活用し行っていくことがよい。

### ② 丸の内の森レディースクリニック 院長 宋美玄さん

- ・ 包括的セクシュアリティ教育については、未就学児から思春期、その保護者に伝える必要がある。
- ・ 包括的セクシュアリティ教育に関する書籍やリーフレット等、既によいコンテンツが作られている。冊子だと読んでもらえないかもしれないため、コンテンツを届けるためにメディアなどの活用が必要。
- ・ 関係学会や大学などのアカデミアの団体等にもヘルスリテラシー向上の取組に協力してもらうのがよいのではないか。
- ・ 思春期の頃から初潮やワクチン接種を機としてかかりつけ医を持ち、継続的に相談できる仕組みを作るとよい。対面の相談支援に関しては、マンツーマン、もしくは少人数グループで情報提供するのがよい。スウェーデンのユースクリニックがモデルになるのではないか。
- ・ 名称については、子どもにも分かりやすい名称が良いが、性的なことが連想されない名称が良い。ユースセンター等シンプルな名称が良いのではないか。

### ③ Siblings (シブリングス) 合同会社 CEO、性教育サイト命育 代表 宮原由紀さん

- ・ 子どもがインターネットで簡単に性の情報にアクセスができる中、独自調査によると保護者の8割以上が性教育に自信がないという現状があり、医師専門家監修の保護者向けに子どもの年齢に応じた情報、具体的なQAを載せた性教育サイトを立ち上げた。
- ・ 家庭での性教育は、①日常の中で何度でも繰り返し伝えられる、②失敗してもやり直しができる、③子どもの反応を見て進めることができることにメリットがある。
- ・ 性教育サイトでは、性教育の情報を自ら探している家庭にしか情報が届いていない現状がある。性教育に関心がない家庭（情報が届いていない家庭）に届けることは行政ができるのではないかと思う。
- ・ ほぼ全ての親子が訪れる乳幼児健康診査や、子育て世代包括支援センター、医療機関の受診や HPV ワクチン接種期間等、妊娠から子育て期に行政や医療機関と関わるタイミングを活用し、プレコンセプションケアに関する情報提供を行うことがよいのではないか。

2021（令和3）年5月27日

## プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング （第2回）

### 渡辺子ども家庭局長冒頭挨拶要旨

- この度はご参集いただきありがとうございます。
  - 令和3年2月9日に閣議決定された「成育医療等基本方針」において、政府はプレコンセプションケアに係る体制整備を図ることが明記されています。
  - 前回のヒアリングに参加された皆様から、プレコンセプションケアの体制整備にあたっては、
    - ・性と生殖に関する科学的知見を教える健康教育は、単発で終わるのではなく、継続して行うことが必要であること
    - ・小児期はプレコンセプションケアの基盤を作る時期であり、プライベートゾーン、月経、避妊の知識、性的指向・性自認を中心に伝えて行くことが重要であること
    - ・小学校の低学年からジェンダーバイアスに違和感を覚える児童がおり、固定的な男らしさ・女らしさに縛られないようなジェンダー教育を行うことが重要であること
- などプレコンセプションケアの体制整備等について、多様なご意見を頂戴したところです。

- 今回のヒアリングでは、男性不妊という観点、産婦人科からの観点、ウェブを活用しての家庭等での性教育支援という観点から、有識者の方々にご参集頂いており、ご知見を頂戴できればと思います。

2021（令和3）年5月27日

## プレコンセプションケア等に係る有識者ヒアリング （第2回）

### 大隈政務官閉会挨拶要旨

- この度は、有識者の皆様の御知見に基づく様々な御意見をいただき、ありがとうございます。
- プレコンセプションケアについては、その重要性が指摘されておりますが、未だその概念について整理されていないものと認識しております。厚生労働省として体制整備を図るにあたって論点・課題を整理するため、今般関係団体の皆様をオブザーバーとしながら、有識者からのヒアリングを実施させて頂きました。
- 今般のヒアリングを通じ、今後、プレコンセプションケアの体制整備を行うにあたっての課題がより明確になったと思います。  
特に、
  - ・保健所や医療機関、関係団体が協力して家庭や地域での包括的性教育についてウェブ等を十分に活用しながら、推進していくこと
  - ・学校や家庭以外で性、生殖及びジェンダーについて相談できる場所を提供することが重要であると改めて認識しました。

- 今回頂いた御知見を踏まえ、今後プレコンセプションケアに係る体制整備を進めていきたいと考えております。有識者の皆様、関係団体の皆様におかれましては、ヒアリングに御参加頂き、御礼申し上げますとともに今後とも御協力のほど、何卒よろしくお願い致します。